

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1494400110	事業の開始年月日	平成29年4月1日
		指定年月日	平成年月日
法人名	医療法人社団 慈広会		
事業所名	グループホーム 楓		
所在地	(〒252-1107) 神奈川県綾瀬市深谷中3-12-15		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年11月27日	評価結果 市町村受理日	令和2年2月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・機械浴を設置しています。未永く、入居者様に負担無く入浴を提供できます。・出来るだけ地域の食材を使い調理しています。・月行事に力を入れています。（地域交流を含めて楽しい一時を過ごせるように）

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	令和1年12月17日	評価機関 評価決定日	令和2年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、小田急江ノ島線長後駅からバスで約10分の「大法寺」バス停から徒歩で5分程の、幹線道路に面した場所に立地している。大きな軒家の様な外観で広い駐車場があり、近隣には、住宅や商店、工場、農地などが点在している。木造2階建てでバリアフリーの建物内は掃除が行き届いている。1階の浴室には機械浴の設備が整い、居室に洗面台を備えている。車いすを使用している利用者が約半数と増加傾向にあるが、事務や調理専門の職員の協力も得て、介護経験豊富な職員と共にサービスを提供している。開所より2名の看取りを経験している。</p> <p>【外出と食事を楽しむ】 「行事食」と銘打った行事を企画して、ファミリーレストランや商業施設のフードコートで食事を取り、その後に買い物をするなど、外出や食事を楽しんでいる。事業所での食事は、職員が利用者と同じテーブルにつき、話題を提供したり、見守りや介助をしながら利用者と一緒と同じ物を食べている。料理の下準備の煮干し出汁の匂い、まな板で野菜を刻む音などで利用者の五感を刺激している。利用者は、下膳や食器拭きなどを行っている。寿司の出前を取ったりコンビニエンスストアでおやつを買うなども楽しみの一つである。農家の直売所で旬の野菜を購入して食卓に上げている。車いすを使用している人も、手作り弁当を持参してピクニック気分近く公園まで花を見に出かけている。食事を通して「家庭的な雰囲気の中で生活できるようにする。」という理念に即したサービスを提供している。</p> <p>【災害対策】 管理者は、防災訓練時に非常ベルが鳴ると緊張する職員の様子を見て、年2回の訓練では対応できないと判断し、様々な想定をした防災訓練を毎月実施している。備蓄リストを作成し1週間分の食品、日用品、ブルーシートなどを準備している。地域の防災訓練にも参加している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 楓
ユニット名	1 F、2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所に貼りだし出社前に確認を行う。 ・年に合同会議、学習会での意識づけを行っている 	「安全に配慮しながら家庭的な雰囲気の中で生活できるようにいたします。」など3項目の事業所の理念を掲げている。理念は事務所内に掲示し合同会議やフロア会議で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の行事情報を得て参加している。 ホーム内行事もポスター掲示し参加をして頂く。時間帯を合わせ散歩時の交流がある。地域のボランティアの参加がある 	中村地区自治会に加入し、利用者は、どんど焼きや中村祭り、運動会の見学に出かけている。また、美化デーのゴミ拾いや地域の集まりである井戸端会議に参加し、ゴミの分別など、地域の問題を話し合っている。綾瀬市保健福祉プラザ主催の認知症カフェに出かけている。散歩で公園に出かけた際に、犬の散歩をしている人などと挨拶を交わしている。フラダンスや大正琴などのボランティアが来訪している。事業所主催の楓祭りに地域の人が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、見学・相談は行い、認知症についても、施設の様子についても見て頂けるようにしている。認知症カフェへの参加。井戸端会議への参加。 		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・夏から暑さや雨でなかなか散歩へ行けず、室内での運動に限界がある現状に。リハビリの導入へ向けての動き出しが得られた。認知症の方が外出しやすいところの情報提供等。</p>	<p>運営推進会議は、利用者の家族、民生委員、綾瀬市高齢介護課職員、地区社協職員・会長、地域包括支援センター職員、中村区副区長、事業所の職員が参加し、2か月に1度開催している。活動報告、外部評価結果、ケアプランの経過記録などを報告し、話し合っている。「リハビリに法人の人材を活用しては」という意見を取り入れ、理学療法士が来訪している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>・わからないことを聞いたり、ホーム長会議での報告、相談を行っている</p>	<p>事故報告や相談などで市の高齢介護課に連絡をしている。また、市の担当者が法人のホーム長会議に参加しており、その際にも相談などを行っている。福祉総務課の職員が生活保護費を受給している利用者の面談で来訪した際に、事業所の取組みなどを伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・3カ月に1回学習会を開いている。外部への研修がまだ少ない為積極的に参加するようにしたい。センサーマットの使用がなくなるよう努めている。	事業所に面している道路は、交通量が多く危険なため施錠について家族に説明し了承を得ている。玄関とユニットの扉は、暗証入力し施錠している。職員は、センサーマットの使用やユニットの扉の施錠などが身体拘束にあたることを認識している。今後も話し合いを続け利用者の状態を確認しながら改善に努める意向である。利用者の外に出たいそぶりが見られた時は、職員が理由を傾聴し一緒に外に出たり、ユニット間を往き来きしている。身体拘束廃止と虐待防止の委員会を3ヶ月に1度開催している。自己点検チェックやネット配信を利用した学習会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・フローア会議内や定期的にアンケートや勉強会を行い、職員の面談も定期的に行っている。皆が周知できるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・今後、学ぶ機会を得たい		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・プリントを一緒に1つ1つ説明を行い、不明な点が出た際はきちんと説明できるよう心掛けている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者、ご家族面会時等に意見や様子を伝え、情報交換を行い、意見要望が反映できるようにしている。(外出行事を増やしてほしい等)</p>	<p>毎月発行している「楓たより」で利用者の様子を伝え、たよりに「ご相談ご意見がありましたらお気軽にご連絡ください」の一文を掲載している。家族の意見は、来訪時や3ヶ月に1度開催の家族会で把握している。「行事食」と銘打った外食や買物をする企画を実施して「外出を増やしてほしい」という家族の要望に応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や提案がある際、都度、反映させるようにしている ・自分達で解決できない際は上司に相談している。 ・（食事に関しては調理会議をもっている。会議の曜日や時間調整等） 	<p>管理者は日常的に職員の話をしている。毎月の全体会議、フロア会議、調理会議でも意見を聞いている。年1回管理者との個人面談を実施している。職員の意見を反映し会議の開催日時を早く提示している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・資格手当、勤続手当を設けている ・職員の健康状態、働きやすい環境で就業できるよう配慮している。また休み希望取り入れつつ互いに協力し環境作りに努めている 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の力量を把握に努めている。 ・月1回学習会をし、スキルアップに努めている ・内部の講習にネット配信の導入。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・慈広会の学習会への参加し交流をもつようにしている ・他グループホームの情報交換をしている。 		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・申込み、契約時の段階で本人、ご家族の困っている事、要望等を聞き安心して預けられるようなサービスの提供を行うように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・話をよく傾聴しサービス提供を考え、相談しながら関係作りをしている ・面会時、様子を伝え要望に応えられるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要に応じ本人、家族と相談のもと他サービス利用を行うようにしている (訪問マッサージ等の受け入れ)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員も含め個々にあった役割を行ない、共に暮らす者同士の関係、職員との関係を築く様にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族とコミュニケーションをよくとり本人の状態の把握をして頂き、協力を得るようにしている。行事などにもお手伝いしてもらおう		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に面会や外出を受け入れている（友人の面会等） 趣味活動の場の提供（カラオケや買い物） 	友人などが来訪した際は、応接室や居室で過ごしていただき、お茶などでもてなしている。数名が携帯電話を使用している。家族と外食やドライブに出かけたり、職員と墓参りなどに出かけている。趣味のカラオケなど、今迄の生活習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 個々の性格やその日の状態に合わせ利用者同士の関わりが持てるように支援するように気を付けている （洗濯干す方、たたむ方。食器を拭く方、清掃する方等） 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 本人が亡くなるケースで連絡があれば対応している 最後のお手紙は出している （今年はいない） 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人や家族の意向を把握しカンファレンスで検討している。 困難な場合は再度、家族、本人と相談している	旅行、温泉、買物に行きたいなどの利用者の思いは入浴中などに把握し、家族にも聞いている。意向の把握が困難な場合は、利用者の表情で思いを推し測り職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・可能な限り本人より情報を得、家族、ケアマネより情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・管理日誌や本人の訴え等や個人記録で日々の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族、必要な関係者と話し合い意見交換し介護計画を作成に努めている ・個々の介護計画がわかるようにタブレットや壁に介護計画を貼りだしている	入所時は1～3ヶ月で介護計画を見直している。その後は短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直し、状態に変化があった際は随時見直している。「サービス内容チェック表」に「よく出来た、出来た、出来なかった」を○△×で記入し、日々のサービス提供結果を可視化する事でモニタリングに役立っている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・個々の記録を行い（連絡ノートや往診ノート等含む）を活用し職員間カンファし共有している・気付いた事や気になることがあれば記入できるようにしている</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・必要に応じて外部の支援をいれたりしている（訪問マッサージ訪問歯科など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ゴミ収集を行っている ・子供たちの通学時や帰宅時に窓より見送っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人のかかりつけがある場合はご家族様の協力の下支援している ・個々の歯科受診が受けられるようにしている	協力機関の医師が月1回往診し利用者全員が受診している。往診に同行している看護師が健康管理で週1回訪問している。歯科は協力医のほか、数ヶ所の歯科医を受診している。皮膚科などの専門医への受診は、家族が対応し「受診報告書」で内容を共有している。理学療法士や訪問マッサージが来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪看、往診ノートを作り報告、相談し適切な医療や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院が法人にあるため、情報交換は密に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に話し合い、必要な段階で家族、主治医、訪看等と十分な話し合いを持ち、ケアにあたっている	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明している。医師が終末期であると判断し家族の意向があった時に「看取りに関する指針」に同意を得て「看取り介護に関する計画書」を作成している。開所以来2名の看取りを経験している。研修を今年度内に実施する意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故発生後を元に今後起きないように事故防止の学習会を年に2回行うようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練は月に1回行い、避難経路、手順等や機器の操作の確認を含め行っている。消防署を含めた訓練は年に2回行っている。 。	消防署立会の消火訓練や夜間想定の実施している。他、職員の緊張を防ぐ目的で毎月自主訓練を行っている。地域の防災訓練に参加している。米、飲料水、缶詰など1週間分の食品とカセットコンロやブルーシート、日用品などを備え「備蓄品リスト」で管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・呼びなれた呼び名で呼んでいる。 ・プライバシーは排泄時、場合により出来ていない時がある（便失禁の時など） 	接遇の研修を5月に実施している。家族に了承を得て、以前から呼ばれている下の名前に「さん」を付けて呼んでいる利用者もいる。個人ファイルなど個人情報を含む書類は、事務室の書棚に納め施錠して管理している。	構造上閉めにくいトイレの扉の対応について、改めて話し合い、排泄時のプライバシーの確保について工夫することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る限り自己決定できるよう努力している（食事の要望・買い物や外出の要望等） 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤状況により職員側の都合になりがちの為、出来る限りは個々が自由に過ごせるよう支援していくよう努力していく（自宅の様子を見に行きたい等） 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の希望を添うようにしている ・ネイルやお化粧を楽しむ時間を作るようにしている 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩時に野菜の購入をしたりしている ・出来る方には片付け・食器拭きを行って頂いている ・おやつ準備は手伝っていた 	ラーメンやステーキなど、利用者の好みを把握して、調理専門の職員が献立を作成し食事を提供している。卵や米は近隣の専門店、野菜は農家や農業協同組合の直売所で購入し、その他は食品卸業者に注文している。職員は利用者と同じテーブルにつき見守り	

				や介助をしながら利用者と一緒と同じ物を食べている。利用者は、下膳や食器拭きをしている。寿司の出前を取ったり外食に出かけたりしている。調理職員を採用する事でゆとりを持って介護に向き合えるようにしている。	
--	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の食事量、水分量のチェックをしている ・個々に合った食事形態を提供している ・好き嫌いを把握し違うものを提供。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後口腔ケアをしている ・家族や本人より歯科受診の希望があれば見て頂いている 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った排泄、誘導をしている ・月に1回、パットの使用状況について話あっている 	排泄表でパターンを把握し、車いすを使用している方も、トイレでの排泄を促している。夜間は安眠を優先して、おむつや吸収率の良いパッドに替えている。頻繁に失禁をしていた方が、日中の働きかけにより、失禁の回数が減った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・体操や食事、水分、内服で対応している ・毎日の日中の運動時間を増やしている 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本、入浴日は決めているが入る時間は個々に応じるようにしている ・拒否の強い方には毎日の声掛けを試している 	入浴は週に2～3回で、入浴日は決めているが、入浴を好まない方には時間や日にちを変えるなどで対応している。機械浴は毎回お湯を入れ替え、個浴はかけ流しにしている。同性介助や長湯の希望に応じ、季節のゆず湯を楽しんでいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中は基本食堂で過ごされています。ソファで時折ウトウトされることもあるが、基本日中の活動を増やして夜間の睡眠へつなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は往診ノート、個人のチャート、連絡ノートで確認し、薬の変更時はボードに記入し周知できるようにしている。個々の状態変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来る限り個々の楽しみを活かし、役割を持って生活できるよう支援するよう努力している (園芸担当・洗濯物担当、買い物担当など)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個々の希望に添っての外出を行うようにしているが職員の状況により出来る日とできない日がある	日常的には、公園への散歩やコンビニエンスストアに買物にでかけている。車いすの利用者も近くの公園に手作り弁当を持って出かけたり、駐車場などで外気浴をしている。車でバラ園に出かけたり、外食後に商業施設で買い物を楽しんだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本お預かりしている。使用の際は本人対応としている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族様と相談、同意の下、常識範囲時間内での電話は可としている。手紙は年賀状を試みたが字を書くことが困難な方多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の飾りや定期的に窓を開け空気の流れ替えと共に風を入れている	浴室前の坪庭、楓や柚子、紫陽花などを植栽した季節の移ろいを感じとれる庭がある。リビングや浴室などの清掃が行き届き、加湿器や空調設備で湿温管理をしている。窓をまめに開け換気し、日差しはカーテンで調節している。金魚やメダカの飼育やクリスマス飾りを施して生活感や季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を考え、車いすの入りやすさ等工夫している (テーブルの高さの変更等) マッサージチェアの設置。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内における範囲であれば持参して頂いている	空調設備、照明器具、チェスト、 防炎カーテン、洗面台、椅子、ベッドが備え付けられている。介護用ベッドは貸与している。利用者はテーブル、椅子、テレビ、家族の写真、植物などを持ち込んでいる。手作りのクリスマスリースで飾った居室の表札は苗字ではなく、日常呼んでいる名を表示している。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・個々を理解し、その人に応じたケアを見守り安全に過ごせるよう工夫している		
----	--	---	--------------------------------------	--	--

目標達成計画



事業所名

ケル-~~ツ~~収受

作成日

R 2. 2. 10

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	着取りに関した学習会がまだ未定であった	職員の周知とともにスキルアップにつなげる	・学習会を聞く ・経験に基づき話し合い、極までできる着取りについて話し届ける	1ヶ月
2	14	構造上閉めにくいトイレの扉の対応について考える(特に車いす使用者)	排泄時のプライバシーの確保を考慮する	・トイレ使用時(車いすの方)に扉が開いている際は閉めるよう心がける。又、終わるころも開けるよう注意していく。	1ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。